

「地域で安全にくらす」

鳴門市第一小学校 五年 木村 杏

私の学校では交通安全について地域のけい察官が来て教えてくれる日があります。登下校時にはパトローカーに乗ってパトロールしてくれています。お父さんやお母さんや学校の先生も、特にあぶない場所では見守りをして事に合わないよう呼びかけてくれます。私が住んでいる地域は、通学路に信号がない交差点や歩道がない旧道があります。混み合う時間帯には、歩く人と自転車が多く行き交うのであぶないと感じる事があります。私は妹と友達と横に広がらないように注意しながら歩きます。中高生が数人で横に広がって話しながら行っていて、車のじゃまになっていたのを見たことがあり、自分は気をつけようと思いました。

高学年になり、友達と自転車で遊びに行くことふえました。ニュースで令和五年四月一日からすべての自転車利用者に乗車用ヘルメットの着用努力義務が課せられたと言っていました。これは事こをした時に、頭を守るためです。小学生の交通事故のうち約8割は自転車に乗っている時に起きた事こだそうです。ヘルメットをしていない時の事こ死はヘルメット着用時と比べると約二・三倍も高くなることが分かっています。

交通ルールやマナーは、道路を利用するすべての人や車、自転車が、守らないと事こが減らないと思います。よくお母さんが

「車を運転するようになってから、きけんな場所を通る時に注意したり、子供がどうすれば安全に過ごせるか考えるようになった。」

と言っていました。おたがいの気持ちを考え、交通ルールを守り、悲しい事こが減ってほしいなと思います。それを少しでも現実に近いけるために、人々が協力し合えたらうれしいです。そこで、私の通学路にはお地ぞうさんがあります。毎年おぼんには地域の人たちとそうじをして、お菓子をおまつりして交通安全を願います。昔大きな事こがあつて、それからみんなで気をつけようという意味をこめてお地ぞうさんが立てられました。いっものは何気なく通る交差点ですが、よく見るとカーブしていて、信号機に気づくのが、直線の道よりもおそくなります。自分が車の後部座席から外を見ているとあぶない場所だと気づくようになりました。

交通ルールを守ることで、歩いている人が車からどんなふうに見えるのか、自分が歩いている時も充分注意して横断歩道を歩くようになりました。昔事こがあった場所はより安全になるように、信号が取りつけられたり、注意するようかん板がつけられたりしています。自分も、他の人にも注意を向け、ふだんから安全に通れるようにしたいです。

事こがない安全な地域になるように、私もみんなと交通安全についてや事こがおきないように対さくするなど考えていきたいです。